2025.7.7
　語りもらした情報を記します。

　じつは新選組史に池田謙次郎は無関係ではありません。
　新選組と接触し、最初の新選組伝「新撰組始末記」(1889 年)を記した西村兼文(芳三郎)の関連です。

　西村は西本願寺の侍です。どういう事情か分かりませんが、西村は新選組が西本願寺に移って来たころ、長州に潜入してさまざまな情報を集めています。その情報は重宝されたようで、たとえば一橋家を介して細川家が入手しており、『肥後藩国事史料』に掲載されています。たとえば天誅組主将中山忠光暗殺情報なども載っていますが、毒殺とされており誤情報も多いですが、しかし同暗殺情報としては最古に近いものといえます。
　この長州行が彼の著作『甲子戦争記』を生んだと思われます。

　さて「新撰組始末記」の「長藩石津茂一郎就縛、附隊士田中寅蔵屠腹之事」の項に、慶応元年(1865)閏 5 月、西村が帰京する際、下関から同行した人物として「村井逸馬と変名していた池田健次郎（江州大津人）」と出てきます。甲子戦争で戦死した来島又兵衛の家来、石津茂一郎(峯郡之助)が池田を追って京都に入って来たという情報もあわせて載っています。石津は新選組に捕らえられますが、伊東甲子太郎によって釈放されたとして知られます。

　村井逸馬という名は中岡慎太郎の日記に登場するなど、重要人物な感じを受けますが素性不明です。たしかに池田謙次郎と同一人物なら興味深いのですが、裏付けが取れておりません。今後の課題といたします。

中村武生